

「いつ起きてもおかしくない災害」

群馬県 渋川市立渋川北中学校 2年 齊藤 明^{さいとう あきら}

「土砂災害なんて僕には関係ない。」

僕は家で土砂災害のニュースが流れているのを見るといつもそう思っていました。

実際、僕は生まれてからずっと群馬県に住んでいますが、これまでも一度も災害にあったことはありませんし、見たこともありません。僕は土砂災害の怖さを全く知らないで、もし起きてしまったらどうしようなんて、考えたこともありませんし、準備もしていませんでした。

3年前のある朝のことでした。テレビをつけてみると、めちゃくちゃに壊れた建物や救助隊の方々が救助に向かう映像が映し出されていました。

「何事だろう。」

僕は普段関心のない土砂災害のニュースに釘づけになりました。それは、平成 26 年 8 月 20 日に広島県広島市北部の安佐北区や安佐南区などの住宅地を襲った大規模土砂災害のニュースでした。午前 2 時から 2 時間にかけて見舞われた集中豪雨により、死者 77 名負傷者 44 名、133 棟もの建物が全壊するという大きな被害や犠牲者をうみました。

僕はこの 77 名もの命をうばった「土砂災害」というものがどのようなものなのか疑問に思い、調べてみることにしました。

まず、土砂災害とは、大きく分けて「地すべり」「がけ崩れ」「土石流」の 3 つがあります。「地すべり」とは、土砂災害のうち、もっとも大規模なもので、緩やかな斜面の場所でも、粘土のようなすべりやすい地層に雨水などがしみこみ、その影響で地下水が増し、地面がすべり出す現象です。また、家に乗せたまま動くこともあるので非常に危険なものです。

次に、「がけ崩れ」についてです。「がけ崩れ」とは、地中にしみ込んだ雨水により、急な斜面が突然すべり落ちる現象です。これもまた、すべり落ちた先の建物は破壊されることがあるので非常に危険です。

最後に「土石流」です。「土石流」とは、谷や山の斜面から崩れた土や石などが、大雨による水と一緒に流れてくる現象です。がけ崩れと同様、斜面の下の建物は破壊されてしまいます。

僕は、「土砂災害」というものを甘く見ていました。しかし、これらのことを知った時「土砂災害」とは簡単に人の命をうばってしまう恐ろしいものだということを感じました。

また、考えてみると、群馬県の地形はたくさんの山々に囲まれています。そのため、土砂災害が起こる可能性は決して低くないのではないかと思います。

そこで、実際に群馬県で過去にあった土砂災害について調べてみようと思いました。すると、過去に群馬県でとても大きな被害をもたらした土砂災害があったのです。それは、昭和 22 年 9 月、カスリーン台風という台風による豪雨によって起きた土砂災害です。

9 月 9 日以来、連日の降雨に見舞われていた利根川上流域では、この台風の影響による降雨により大洪水が発生しました。赤城山を中心に 5,500 箇所以上に及ぶがけ崩れや地すべりとほとんどすべての渓谷で土石流が発生したため、群馬県下の犠牲者は死者 592 名、行方不明者 107 名、負傷者 1,231 名にものぼりました。

僕は、「土砂災害」というものを他人事のように考えていました。しかし、実際に群馬県ではこのような大きな土砂災害があったことを知り、とても、「土砂災害」というものが他人事とは思えなくなりました。

このように、「土砂災害」は、簡単に命をうばってしまう恐ろしいものです。そして、土砂災害に限らないのですが、災害は、いつ何時やってくるかわかりません。「自分には関係ない。」と思っ
ていても、突然起こってしまうこともあるのです。ですから、いつ何時やってくるかわからない災害に対して、しっかりと備えておくことが必要だと思いました。

僕はこれから、万が一家族がそれぞれ学校や仕事に行っているときに災害があったらどうするか約束したり、群馬県の「防災情報マップ」をチェックして、避難ルートを確認するなど土砂災害などの災害について真剣に考えていこうと思います。

「いつ起きてもおかしくない災害」のために。